

支援ロボット「ダヴィンチ」使用

日本初 同時手術に成功

徳島大学病院

徳島大学病院は23日、内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いて、食道裂孔ヘルニアと合併症の胆結石の同時手術を日本で初めて成功させたと発表した。現在、主流である腹腔鏡手術に比べて安全性が高く、手術時間が短くて済むのが特長。患者や医師の負担が軽減でき、同大病院は患者の治療の選択肢が広がるを期待している。

安井夏生病院長と執刀 医の丹黒章副病院長が同 大病院で会見した。安井 病院長らによると、同大 病院は3月末、60代男性 に食道裂孔ヘルニアと胆 結石の同時手術を実施。 術後の経過は順調で、退 院まで通常より通問かかる 食道炎を併発し、症状が

食道・胆のう 離れた部位



「ダヴィンチ」を使った同時手術について会見する安井病院長と丹黒副病院長
—徳大病院

長引くようだと食道がんを引起こす恐れもある。ダヴィンチは、メスや はさみを装着したロボット 長引くようだと食道がんを引起こす恐れもある。ダヴィンチは、メスや はさみを装着したロボット

の周りの狭い空間で細かい切除や縫合を行うため、精密なアーム操作ができるダヴィンチを使うことで医師のストレスを軽減できる。

また、食道裂孔ヘルニアと胆結石は手術部位が離れているため、腹腔鏡で同時手術を行う場合は一つの手術を終えると患者の体勢を変えてもう一方の手術に取り掛かる必要があった。ダヴィンチのアームは体内で自由に動くため、今回は患者の体勢を変えることなく手術ができたという。

同大病院は2011年10月にダヴィンチを四国で初めて導入し、前立腺摘出14例、胃がん手術2例を行い、今回が17例目。ダヴィンチによる同時手術は同大でも初め

(大塚康代)